

祝「うえまち」創刊20周年!

「うえまち」は2025年4月、20周年を迎えます。

web版では街ネタ・グルメ・イベント・歴史・教育・子育て・福祉・医療など地域情報を紹介。創刊号(2005年4月号)からのバックナンバーもご覧いただけます。

うえまち新聞
web版



上町台地界隈の情報紙

揮毫 一心寺長老
高口恭行師

うえまち

since 2005

第240号

2025年秋号

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
✉ uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

うえまち新聞
web版



「上町台地」名所図会

第35回

府立夕陽丘高校
清香会館(天王寺区)

筆者が学生のころ、大阪府の公立高

校は9つの学区に分かれており、そのうち第5学区には高津、八尾、清水谷、夕陽丘など伝統校が多くありました。なかでも夕陽丘高校は5学区の女子中学生にとって憧れの的。セーラー服が評判でしたし、高等女学校の流れを汲む知的な雰囲気も人気の要因でした。

夕陽丘高校は1906(明治39)年の設立。当初の名称は島之内高等女学校でいまの東心斎橋にあり、2年後に天王寺区の夕陽丘町に移転します。このときから校名に夕陽丘を冠するようになったのでした。さらに1934(昭和9)年に北山町に移り、戦後になって現在の校名になります。

戦前の校舎の多くが改修されたなか、唯一、清香会館(写真左)が高等女学校時代のおもむきを残します。木子七郎(きこしちろう)の設計で、彼は関西西日仏会館を手掛けるなど大阪を拠点に活躍しました。清香会館には円形窓の格子飾りをはじめ細部にアールデコ調の装飾が施されるなど、後期の作風がよく表れているそうです。

ちなみに、木子は大坂赤十字病院にも建築主任として関わっていました。自宅も中央区にあり上町台地とは深い縁があったのです。

実は、口縄坂にも夕陽丘高女の名残があつて碑が建ちます(写真右)。ここが夕陽丘町時代の通学路でした。高津中(現・高津高校)の学生だった織田作之助が坂を上る一人の女学生に憧れ、『木の都』に彼らしい筆致でそのときの思い出を書き残しています。



高女時代のおもむきを残す清香会館



口縄坂の途中に夕陽丘高女の碑が建つ

中原文雄／写真

1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文

1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会(ずえ)とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「うえまちweb」(<https://uemachiweb.com/>)連載の「『上町台地』名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。



相羽秋夫の

らくごハローワーク

パチンコ店

第45 職

アイディア満載『パチンコ国技館』

パチンコの前身になったのは、1930年代に大流行したコリントゲームである。わずかに傾斜した逆U字形の盤に10個の穴を開ける。その穴の周囲に釘を数本打つ。盤の右下から小さな球を棒で突き出し、球が穴に入った結果で優劣を決める室内遊戯だ。



欧米でピンボールゲームとして知られていたが、小林脳行という会社がこのゲームを相撲好きの男が、相撲ずくめのパチンコ店を開業した。店主自ら行司の衣装で軍配を持って店内を巡回する。パチンコ台は全て力士名が付いている。BGMに触れ太鼓が流れ、景品は相撲グッズに統一されている。客の1人が、しこたま玉を出した上で、もう出ないと抗議すると、店主、行司口調で「これにて本日の打ち止め」。 (桂文福作)

移入した。小林をコリンと読み変えてコリント商会という会社名にし、ゲームもコリントゲームと名づけて、売り出したものである。

それを改良したパチンコは、ガラス張りの長方形の箱の下から発条(ばね)で小さな鋼球をはじき、多くの釘に囲まれた穴に入ると多数の球が出る仕掛けで、ご存じのとおり球の数でいろいろな景品に換えることが出来る遊技である。

機種はどんどん進化を見せ、最近ではAIを導入したものなど、愛好家の興味を引くことに余念がない。そのため、パチンコ依存症という、社会現象を生んでいる。パチンコをすることが、生活の大部分を占め、多額の借金をかかえても止められない現状に苦しんでいる人が多い。

パチンコには、別の遊戯もある。二股の小枝にゴムひもを付けて、小石をはさんで飛ばす玩具を指すことがある。また、ピストルの隠語としても、警察関係者や犯罪者の間で使われている。

「パチンコ台裏の狭さに乳房熟(う)る」(橋本修)の印象的な俳句が残る。

NPO法人「まち・すまいづくり」活動報告

お問い合わせはNPO法人「まち・すまいづくり」まで
TEL: 06-6779-7222

住まいと暮らしの総合無料相談会

9月13日・10月11日・11月8日・12月13日(土) 10時〜12時

弁護士、司法書士、一級建築士、税理士、宅地建物取引士の当法人会員が専門知識を生かし、住まいと暮らしのご相談に応じます。電話またはHPよりお申し込みください(電話受付は平日10〜15時)。

主催：NPO法人まち・すまいづくり
電話：06-6779-7222
場所：大阪市立社会福祉センター(天王寺区東高津町12-10)
後援：天王寺区役所

第49回 うえまち寄席

11月30日(日)

13時30分開場、14時開演

桂米之助、桂佐ん吉による古典を中心とした落語会です。

場所：一心寺南会所

(天王寺区逢坂2-7)
入場料：予約2500円
当日3000円

第50回 記念公演決定

2026年2月7日(土)

うえまち寄席第50回を記念し、国立文楽劇場で開催します。詳細は決まり次第、本紙またはうえまち新聞webなどでお伝えします。

※今号より年4回(季刊)でお届けします。

